

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.34 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成20年10月25日発行

環境講演会を開催します (当会主催)

『森林の危機』

大雪国立公園の原生林伐採問題をととして森林保全と管理、
自然公園のあり方を考えます

飯田洋

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会会長・弁護士

(日弁連公害対策環境保全委員会自然保護部会長、岐阜県公害環境保全委員会委員長)

日時 : 11月29日(土)PM7:00より 場所 : 高山市民文化会館

☆ 今年最後の行事です、知人、友人をお誘いの上お越しください。 (入場無料)

自然観察会を開催しました

9月7日に「アサギマダラマーキング」、9月23日に「植樹計画地の視察とタカの渡り」を開催しました。両日とも天候に恵まれ、「アサギマダラマーキング」には大人、子供合わせて35名が参加し楽しい一時を過ごしました。特に大人は童心に帰ったように楽しんでいました。鈴木先生が事前に捕獲していたものと、当日参加者が捕獲したものの合わせて97頭にマークをして放蝶しました。放蝶した記録はアサギマダラを調査している団体に報告しました。放蝶したアサギマダラが再捕獲されて、渡りの解明に役立つ事になればと期待しています。

9月23日の午前は野生生物の餌となる実のなる木の「植樹計画地の視察」を、午後からはチャオスノーリゾートの駐車場で、長野県以北で繁殖したサシバ、ハチクマなどのタカ類が越冬するために南へと渡ってゆく様子を観察しました。「植樹計画地」は広大なカラマツ植林地内の一角に予定されています。カラマツ林内には野生生物の餌となる実のなる木はほとんどありませんが、作業用林道沿いには僅かにあり、実を食べにきた熊の食痕が見られました。このカラマツ林の上空を秋になると多くのタカが渡って行きます。午後からはタカの渡りを見るため観察しやすいスキー場に場所を変えました。当日ここで見られたタカは135羽でした。

アサギマダラ マーキング

今年は大人 23 名、子供 12 名と昨年よりも多くの参加者で、アサギマダラを見つけたときは全員が子供のように楽しんでいて「来年もまたやりたい。またやりたい。」と好評でした。

参加者：鈴木俊文、小野木三郎、小原靖子・みなみ・龍神、高嶋恵子、水口順一郎、弘美、海羅、関谷治久・洋子、門順子、藤田直子・未優・理歩、松尾幸子、中谷千穂・圭佑・公介、泉原龍士・孝子、瀬上朋希、沼本文緒・紫、直井陽子・一希・陽一、松崎まみ、大野敏雄、佐藤八重子、田之本克己、古橋克・洋子、宝田延彦・由美子、

小原靖子さん

自然に恵まれた飛騨に住む子供たちにいろいろな経験をさせてやりたいと常日頃思っています。7 月には乗鞍岳のセイヨウタンポポの引き抜きにも連れてゆき、この夏は二人の孫にとって飛騨の自然の良さも、厳しさも肌身で感じたことと思います。



撮影
帽子にアサギマダラが 小原靖子

小原みなみちゃん〔小5〕

マジックで自分の名前をマークしたことが一番楽しかった。鱗分がないのがびっくりでした。アサギマダラ 11 頭のうちメス 2 頭捕れて鈴木先生に「すごい、すごい」と言われとてもうれしかったです。蝶々ととんぼの数え方が頭というのもびっくりでした。また来年も行きたいです。



みなみちゃんの撮影

小原龍神君〔小2〕

大きなあみで蝶を追いかけてつかまえるのが一番面白かった。でも逃げられてしまった。自分の名前を蝶に書くことがおもしろかったです。またやりたい。

松尾幸子さん

とてもすばらしい体験ができました。家へ帰ってさっそくパソコンで調べました。古い記録しかありませんでしたが、（アサギマダラについて）色々な事が理解できました。インターネットの友人にもマーキングの事を報告したらとても興味を持ってくれて、山で見かけたらそっと捕獲してマーキングしてあるか調べてみると言ってくれました。皆、マーキングをする事も始めて知ったと言っていました。多くの人にマーキングを知ってもらおう事も大切だと思います。



さあ、出発

関谷治久・洋子さん

鈴木先生が前もって捕獲されたアサギマダラをウエストポーチから出されマーキングの仕方を教えてくださいました。そのアサギマダラがまさか生きているとは思わず、飛んだ時は本当に驚き舞した。捕獲してから今日までの餌を聞くとポカリスエットとのこと。これまたヘー!!マーキングした 97 頭中メスが 5 頭だったことも不思議でした。みんな元気で渡りをしてネと祈って放しました。

中谷千穂さん

初めて参加させていただきました。鳥でもすごいなあと思うのにあんなヒラヒラ舞い飛ぶチョウが海を渡っていくとは驚きです。再捕獲されるのがほんのわずかという事で、もし自分たちがマークしたチョウが再捕獲され移動場所が判ったらと思うとワクワクします。「みんながんばれー!!」と心の中で言いながらアサギマダラを手から離しました。



鈴木俊文先生からアサギマダラの話聞く

瀬上朋希君(10 才)

アサギマダラがでかかった。海を渡るって聞いてビックリした。捕まえて字を書いたのがおもしろかった。鱗粉が少なかったような気がする。

泉原龍士君(12 才)

(モンシロチョウにもマーキングしていたね)

カミキリムシも捕まえた。アサギマダラを逃がすのはもったいない。家に持って行きたかった。また来年も行きたい。



濁河温泉スキー場にて

日和田高原散策とタカの渡り

秋の高原では下を見るとキノコ、上を見ると南へと渡っていくタカ。自然の中に身を置いて、のんびりと一日を過ごしました。一年のうちでこんな日が一日くらいあったっていいんじゃない。

参加者：飯田洋、小野木三郎、直井清正・陽子、
関谷治久、古橋克・洋子、大野敏雄、
斉藤義之、尾崎裕子、清水幸平・洋子、
田之本克己・那知子、松崎茂・まみ、
棚瀬律子、島田喜代男、門前恵美子、
佐藤八重子、鍛冶谷浩一・多津江、
池田守(友人5名)・宝田延彦・由美子



ベニテングタケ



タマゴタケ

■ 会 員 状 況：平成20年10月末会員数 個人・家族119・団体3

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に ・ 郵便振替 00800-8-129365
入会をおすすめください ・ 振込先 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

くらがね通信 第34号 (秋号) 平成20年10月25日発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：宝田 延彦 E-mail: nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編 集 者：住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供：小池 潜

印刷：アドプリンター